

滝の原便り

社会福祉法人 西仁会広報誌

発行：西仁会広報委員会(管理部)

〒320-0851 宇都宮市鶴田町 3375

TEL 028-632-7577

FAX 028-632-7571



「松尾芭蕉が奥の細道で最も長く逗留したという栃木・黒羽の地。彼がここに留まったのは、降り続いた雨のせいだけではありませんでした。」これは女優吉永小百合さんが出演するJ・R・東日本のCM「大人の休日倶楽部」のナレーションです。黒羽に長く逗留したのはどんな理由があったのでしょうか？このCMに魅かれ黒羽に行ってみよう。

松尾芭蕉は、敬愛する「西行」の500回忌にあたる1996年3月27日(新暦5月16日)以下「新暦」のみ表示、弟子の河合曾良を伴い「奥の細道」の旅に出ました。江戸深川芭蕉庵から日光・白河・松島・平泉に、そして尾花沢から越後・金沢を経て福井・敦賀を通り、8月下旬に大垣(岐阜県)に到着しました。約5か月間、距離にして500里(約800km)の旅でありました。

江戸出发から3日目の5月19日、日光を後にした芭蕉は日光北街道を進み、玉生(塩谷町)に一泊し、矢板・大田原を経て5月21日黒羽に到着しました。これより黒羽城三の丸の一角にある城代家老・浄法寺図書高勝(俳号：桃雪)邸と、当地より那珂川を越え約2km西方にある弟の鹿子畑豊明(俳号：翠桃)邸に交互に延べにして13泊、14日間をこの黒羽の地で過ごしたのです。

浄法寺図書高勝は、鹿子畑家の長子でありましたが、実母の兄の浄法寺家の養子となり、鹿子畑家は一歳年下の弟・豊明が継ぐことになりました。また、高勝、豊明の兄弟は、十代のころ、父と共に江戸住まいをしておりましたが、その頃に蕉門に学び、芭蕉(桃青)から「桃雪」「翠桃」の命名を受けたのでないかといわれています。

芭蕉が黒羽に逗留したときは、黒羽藩(1万8千石)藩主の大関増恒は若干4歳でした。この時期、藩主増恒は江戸藩邸におり、当地には不在でありました。29歳の浄法寺高勝の城代家老としての負担は大変重いものであったと思われますが、芭蕉が逗留すると、弟鹿子畑豊明とともにそのもてなし振りが極めて手厚いものでありました。

芭蕉は現代では知らない人はいないくらい有名な人物ですが、当時(江戸前期)においては、俳諧はまだ武士・大商人・富農クラスの一部の人びとのものでしかありませんでした。従って、俳諧をよく知る人からはそれなりのもてなしを受けるでしょうが、それ以外には名もない一介の旅人としての扱いを受けるのです。芭蕉が比較的長く逗留した尾花沢(11日)・羽黒山(10日)・金沢(10日)などは共通して門弟などの知り合いがおり、そこでは歌仙の興行なども行われ、長旅の芭蕉にとっては経済的にも潤い、大変居心地もよく欠かせないところであったと思われます。

こうしたことに加え、黒羽は歌枕の地や歴史的故地などを訪れる旅の目的を叶える地であったことが何にも増して大きな要因であったのではないかと考えられます。黒羽逗留中、歌枕として知られる那須の篠原、那須与一にゆかりの光明寺、金丸八幡宮などを訪れていますが、取り分け楽しみにしていたのは、深川での参禅(禅の修業)の師である仏頂和尚がかつて山居修行した庵跡(雲巖寺の奥山)を訪れることでありました。浄法寺邸から東へ約8キロの雲巖寺に多くの若者と一緒を楽しむように向う様子が窺えます。

雲巖寺の後の山によじ登り、この庵跡を目にしたときに芭蕉が詠んだ句が、

木鳥(きつつき)も 庵(いは)はやぶらず 夏木立(なつこだち)

その日は5月21日、正にこの句を心から感じ取れる時期かと思えます。

おでかけになられてはいかがでしょう。

理事長 高野 俊彦



老人保健施設ファミール滝の原

「節分」2月3日

病気や不幸をもたらす鬼に向け「鬼は外！」と大きな声で豆を投げつけ追い払いました。これで今年1年元気で幸せにすごすことができるでしょう。



「ブラスバンド」

2月10日

鹿沼南高校の生徒がブラスバンドを披露してくれました。キレイな四重奏の音色に皆さまうっとり。素敵ないとときとなりました。

「ホワイトデー」

3月14日

今年のホワイトデーはデザート三種盛り。ケーキにシャーベツト・クッキーにチョコと様々な味と食感を味わいました。

「ねぎとろ丼」4月4日

職員がフロアで盛り付けしたねぎトロの昼食。ご飯に乗せてどんぶりしたり、お刺身で食べたりと大変喜ばれました。



「ひな祭り」3月3日

昼食にはひなまつりちらし寿司・赤魚の梅肉焼き・菜の花とホタテのからし和え・アサリのすまし汁。春を感じる食材に舌鼓。おやつには菱餅の配色をイメージした手作りプリン。こちらも美味しく頂きました。

「お花見」4月11日

天平の丘公園へ花見に行きました。天平の丘では八重桜が満開その下で食べる昼食は格別です。天気も良く絶好の花見日和となりました。



通所リハビリテーション

創作活動

今回は桜の壁紙制作です。利用者の皆さんが一生懸命作ってくれました。一枚一枚桜の花を折るのはかなり細かい作業で、出来上がった際は皆さんから歓声が上がりました。



塗り絵

皆さんの作品は廊下の作品コーナーに展示中です。今年もいくつかのコンテストに出品予定ですので乞うご期待。



遊歩道散歩

天気にも恵まれ最高のコンディションで散歩に出かけました。遅咲きの八重桜、しっかり堪能できました。リハビリの合間に、たまにはお出かけも良いですね。ご飯も豪華なお弁当でした。



レクリエーション

今日は買い物ゲームです。お題は「和菓子屋さん」。饅頭・どら焼き・柏餅etc. 売ってるものをどんどん挙げていきます。沢山挙げたチームの勝ち。熱戦の末、今日は女性チームが勝ちました。



特別養護老人ホーム滝の原苑

〈節分昼食会・お茶会〉2月3日

今年の年女・年男は4名。食堂や各居室で豆まきをしてくれました。おやつは手作りの「チョコ鬼パイ」でした。



〈バレンタインデーお茶会〉2月14日

今年のバレンタインは、手作りの「パンケーキ」。いちごやバナナをトッピングし、ソースをお好みでかけ、生クリームをデコレーションして皆さん大喜びでした。



〈ひな祭り昼食会・お茶会〉3月3日

昼食のメニューは、ちらし寿司に茶碗蒸し、菜の花のおひたしとデザートにいちご。彩りも華やかなお膳でした。



〈ホワイトデーお茶会〉3月14日

今年のホワイトデーは、「ケーキバイキング」。5種類のケーキに2種類のパフエ、それに、揚げたてドーナッツを召し上げて頂きました。



〈お花見〉4月9・10・12・13日

今年は桜の開花が早かったため、さくら市総合公園まで4班に分かれお花見に出掛けました。晴天に恵まれましたが風の強い日もあり、ゆっくり散策できなかった班もあったようです。久々の外出に、強風なんて何のその、「楽しかった!」「また来たいね!」「次は何処?」と、次回の外出を楽しみにされている利用者の方もいます。



〈春の苑遊会〉4月18日

生憎のお天気により散策は中止となりましたが「花より団子?」と、いう事でランチバイキングを楽しめました。今回のメニューは、利用者の希望により焼き肉、お刺身の盛り合わせ、春巻き、カシューナッツと鶏肉の炒め物等など和洋折衷メニューとなりました。



ケアハウス滝の原苑

「節分食事会とお茶会」

2月3日節分の食事会。昼食にはお寿司、お茶会には福豆・おやき・手作りおかきを頂き、楽しいひと時を過ごすことができました。「鬼は外、福は内」豆をまきながら近づいてくる春を感じます。



「ひな祭り食事会とお茶会」

3月3日、食堂から見える梅の花を眺めながら昼食をおいしく頂きました。お茶会では「嬉しいひな祭り」の歌を皆さんで唄いました。ひな祭りの思い出話などで楽しい時間を過ごすことができました。



「花見」

4月1日新川桜並木通りへドライブ。満開の桜、心地よい日差しの中で楽しく歩くことができました。今にも手の届きそうなところに咲く桜を眺めることができ、春を満喫した一日でした。



4月10日なかよし通りの桜を見ながら、おいしいお弁当を頂きました。天候に恵まれ、まぶしいくらいの日差しに照らされた桜を満喫しました。



「存知ですか」「芭蕉の忍者説」

よく知られているのは、芭蕉が伊賀の無足人（準士分・農兵）で伊賀者（忍者）として藤堂家に雇われていたという説や、「奥の細道」での足跡が超人的（忍者）な健脚ぶりを示し、東北諸藩の情勢を幕府が芭蕉に探らせる裏の目的があったという説です。

これらの研究で著名な広島大吉丸准教授は、出自（素性）から芭蕉を忍者と見なす説に対して「芭蕉は無足人の末流であるが、父の代では既に農人（民）であり、忍術を身につけ働いた伊賀者とは全く無関係である。また母の出生も資料等から百地氏と関係づけられない。さらに芭蕉は藤堂家に奉公人（台所用人）として出仕している。」などから無理がある説としています。

芭蕉の歩いた超人的な足跡については、最大でもkm（一関〜岩出山）の日が1日あるだけで、他は健脚な当時の日本人（40km・日が標準）とそう変わらない移動距離であり、忍者説を否定できるとしています。

古くは「忍び」、地方によって乱波（ラッパ）・透波（スッパ）・草（クサ）など様々な名前前で呼ばれ、今日の「忍者」という呼び名に定着したのは昭和30年（1960年）以降だそうです。芭蕉忍者説は、いつどのように出てきたのか、広がついていったのでしょうか。

その始まりは小説家松本清張と歴史学者樋口清之共著の「東京の旅」（昭和41年）と言われています。その中で名所や史跡を紹介する「深川」の項に「俳聖が表看板の忍者かー芭蕉」のサブタイトルがつけられ特定の任務を帯びた忍者として推測されています。

これ以後「芭蕉忍者説」は、その根拠や理屈付けが強化されつつ普及・発展し、昭和45年には斎藤栄「奥の細道殺人事件」（光文社）などの文芸作品が登場、昭和63年には歴史時代劇「隠密・奥の細道」（テレビ東京）が放映されるに至り、

一気に拡散していくのです。

現在では、芭蕉忍者説は芭蕉の出自や身体能力からの説明が難しいため、反証可能性のない芭蕉隠密説が残っているそうです。



★映画鑑賞会★

3月17日（日）ファミール滝の原リハビリ室にて第2回映画鑑賞会を開催しました。上映作品は山口百恵さん主演の「野菊の墓」です。今回も16ミリフィルムで上映しました。次回上映DVDではもっと大きなスクリーンでの上映となる予定です。

6月17日（日）上映予定
「そして父になる」を、ご期待ください。



ケアハウス外部塗装工事

この工事の一部は、共同募金「災害準備金」の助成を受け、施工致しました。

*新人職員紹介★



阿曾翔子



特養 調理職
大塚勇次



老健 介護職
上野光子



特養 用務
廣瀬和美



山崎有里



特養 介護職
稲生智恵



編集雑記

眩しいばかりに新緑が輝く季節になってまいりました。

それにしても今年の春は、初夏を感じさせる日が多かったような気がします。そのためでしょうか、桜の開花は早く、開花から7日程で散り始めるといった慌しさ。また、スギ花粉は昨年の2倍、3月下旬からはヒノキが加わり、それも昨年の数十倍の飛散量といわれています。新たにデビューされた方も多かったのではないのでしょうか。現在、林野庁を中心に花粉の少ない苗木に植え替える事業が進められています。植え替えが完了するには何と20年かかるそうで、とても待てませんよね。国会では、モリ・カケ問題、公文書の改ざん、さらにはセクハラ問題でストップ状態、国民に理解が得られるよう早くスッキリして欲しいものです。北朝鮮の核やミサイル放棄、本気なのでしょうか。日本は蚊帳の外ですが、6月始めに予定される米朝会談、開催されるのかも含め、目が離せませんね。

今年大型連休は、3連休（4月）＋4連休（5月）となるため、国内・国外とも近場エリアが人気だそうです。首都圏では東京ディズニーリゾートや上野のパンダなどが人気のようですが、栃木も好調のようで、昨年8月東武鬼怒川線に復活したSL列車大樹は予約で一杯だそうです。ところで、現在日本で推し進めている「観光立国推進計画」では、オリンピック開催の平成32年（2020年）に訪日外国人旅行者数400万人を目標としています。平成29年（2017）で前年比19・3%増の約290万人、このペースでいけば優に達成は可能かと思われます。国別では中国が25万人、次いで韓国14万人で、この両国で約半数を占めています。一方、日本人の海外出国者数は128万人、出国先は米国（ハワイ含む）が約20%、中国15%・韓国13%・台湾11%の順となっています。外国人旅行者数が日本人の出国者数を上回ったのは平成27年から45年ぶりだそうです。

さて、世界が注目する「ワールドカップ・ロシア大会」は来月14日に開幕です。日本代表は、19日コロンビア、25日セネガル、28日ポーランドとベスト16をかけ戦う予定です。テレビで実況放映されるようですが、日本との時差6時間、いずれも寝不足になる時間帯になりそうです。ところでハリルホジッチ監督の突然の解任劇にはびっくりしました。後任の西野さんには頑張ってもらいましょう。季節の変わり目、ご自愛ください。

表紙は、大田原市にある日本4大道場の一つ「雲巖寺」の新緑時の風景です。次回は8月1日の発行予定です。